

## 2023年 深川八幡まつり

株式会社タツミ建築  
小林 功 治

江戸三大祭の富岡八幡宮「深川八幡まつり」の大祭が6年ぶりに開催されました。

富岡八幡宮は、寛永4年(1627年)当時、永代島と呼ばれていた現在地に、武勇の神・応神天皇を主祭神として祀り、徳川三代将軍家光公の御祈禱を目的として開かれました。「江戸最大の八幡様」として人々から親しまれてきました。深川八幡祭りの始まりは寛永19年(1642年)前年に誕生した将軍家光公の長男(後の四代将軍家綱公)の成長祈願の為、幕府の命により8月14日・15日に行われました。第二次世界大戦を経て、戦後お祭りが復活したのは昭和23年(1948年)でありました。



6年ぶりの例大祭を楽しむ筆者

深川の夏といえば、「深川八幡まつり」が挙げられて、特に3年に一度の例大祭・連合渡御は本祭りと呼ばれ、幹線道路を通行止めにして、神輿53基が列を作って8kmを巡行して、沿道の観衆も水を掛けて一緒に楽しむという、歴史と伝統を守った勇壮な祭礼行事です。

今年の例大祭・連合渡御は、令和になってから初めての開催であり、また富岡八幡宮の丸山宮司様が就任されて初めての開催であり、また、新しい木村区長を迎えて初めての例大祭であり、随所に新しさを感じる例大祭でした。

そして今年は台風7号の影響もあり、連合会の山崎会長がメディアに出演されて開催に注目されたお祭りでもありました。

なぜ、例大祭が6年間開催されなかったのか？ 皆様もご承知のとおり「コロナ感染の影響」です。本来であれば2020年、東京オリンピックとパラリンピックの間の期間に開催出来る、江東区・東京のみならず、日本いや世界に向けて発信できる最高のチャンスだったのです。

6年前にも私が8月号に「深川八幡まつり」を寄稿しております。詳しい内容を紹介しておりますので、どうぞご参照下さい。そして今回、月報への寄稿に対して、この「コロナ感染の影響」からお話します。

2020年1月のコロナ感染が発覚して、2月には自粛ムードが高まりました。我が町会の富岡2丁目も、例年餅つき大会を2月に開催しておりましたが、自粛しました。開催への賛否はありましたが、後から考えると自粛しておいて良かったと思っております。この様に町会行事も含めて、人と会う行事がことごとく中止・自粛となりました。

八幡宮神輿総代の定例会も全員を集まる事は中止して、会費の徴収のみとなりました。通達事項のレ



富岡二丁目 神酒所開き

ジメ配布も無くなりました。オリンピックも延期となり、例大祭の延期となりました。まだその頃は、1年経てば何とかなるのでは……という淡い期待感があったように思います。

「コロナ感染の影響」は1年経っても消えるどころか、感染拡大の懸念が出てきました。

オリンピック・パラリンピックの開催は1年遅れで行なわれましたが、富岡八幡宮 例大祭は延期となりました。その際に、例大祭は2022年ではなく2023年(令和5年)まで延期する事が決定されました。私は正直、そこまで待たなくてもという考えは有りましたが、現状を考えるとやはり八幡宮は賢明な判断をされたのだといえる訳です。

「コロナ感染の影響」で色々なものが変化しました。人との接し方、仕事の仕方、思考の方法など様々は部分で変化が見られました。その中で果たして、「お祭り」は人々にとってどういう位置付けなのか？「お祭り」で人は集まってくれるのか？コロナ感染の時期は正直不安を感じておりました。その中で今年の例大祭を迎える準備に入りました。

まずは、寄付金集めからです。6年も経っていると亡くなった方々も大勢居ります。(私の父も2021年に他界しました)その方々からの寄付が無いという事です。また、6年前と比べて物価が高くなっている事です。正直、今回は寄付集めには苦心しました。私達としては一件一件頭を下げてお願いする事しか出来ませんでした。

次に担ぎ手の招集ですが、こちらは久々に連絡頂ける方々もいて、今回の「お祭り」への期待感を感じました。町会に部会旗・町会旗がなびいてきて、永代通りに番号札が張られる時期になると、「お祭り」が近づいてきたのが感じられます。

8月13日、さあ、いよいよ本番です。朝6時前から担ぎ手が集まり始めて、熱気が上がっていく様子が伺えます。「おはようございます」「いや、来ましたよ！」「ご無沙汰でした」「今日は楽しみにしてきました」挨拶で始まり、神輿に集まる顔は、みんな笑顔です。6年前と変わらぬくらいの担ぎ手達が集合

してくれました。感謝・感謝！ よく見ると、若い男女が大勢います。良かった！今まで続けていたものが伝わっているなど感じた瞬間でもありました。他の町会も沢山の担ぎ手達で、永代通りの車道は溢れています。

よし、これで行ける！天気も晴れてくれました。

7時30分の号砲を合図に一番から順に連合渡御が始まります。御本社で揉み差した後は、「富二のおもてなし」の聖水を神輿に頂きます。この水の量が凄い！今年は2tロング車2台分の聖水を用意して、連合渡御神輿全基に振る舞いました。巡行を続けて小休憩まで進みます。

小休憩の後は、清洲橋を渡御します。例年、ここは女神輿で渡御します。流石です。今年の女性たちもやってくれました！その後、箱崎を抜けて巡行していると消防団の放水？それにしても広い範囲でまかれていたと思ったら、突然の大雨でした。これも台風7号の影響の様です。

その後は晴れて、大休憩場所へ。時間も早かったので、腹もすきませんでした。いざ出発を迎える時間に、また大雨に降られました。これからがクライマックスの場所で、まずは永代橋の差し切り渡御です。これは1807年に当時木造であった永代橋が、12年ぶりの祭礼を見に集まった群集の重みに耐えきれず、落橋事故を起こして1400名以上の死傷者を出した史上最悪の事故がありました。その事故で亡くなられた御霊に対する鎮魂として「差し切り」で渡る事になっています。

無事に永代橋の差し切りを終えると、見物客の多い門前仲町交差点に入ります。そこで揉み差し廻しの技を披露して、メイン通り恒例の女神輿を披露します。見物客からの多くの声援を受けておりました。深川不動尊に向けて、揉み差し廻しの技を披露して、御本社へ向います。

御本社で聖水を受けて、揉み差しして連合渡御は終了となります。その後は町会へ戻り、町内巡行へ移ります。帰りも「富二のおもてなし」の聖水を受けて元気を頂きます。

町内を巡行する頃には技も板について見栄えのするものとなります。名残惜しい気持ちもありますが、神酒所前にて神輿担ぎは終了となります。終わった際の手拍子と、担ぎ手皆さんの笑顔はいつ見ても感動を呼びます。達成感・充実感・感謝感・幸福感・一体感など様々な気持ちが一堂に巡ってきます。これは神輿をやった方しかわからないかな？だから、辞められないのかもしれない。

今年の「深川八幡まつり」も、無事に、大きな事故トラブルもなく終了する事が出来ました。



2023年 神輿駒番

これは、参加された方々のみならず、支えて頂いた方々の御理解と御協力が無ければ成し遂げられる事ではありません。また、随所に新しさを感じる祭礼でありました。戦後再開された8年のブランクに次ぐ休止を受けての大祭であり、そして疫病と戦い、疫病を克服したお祭りとして、歴史に刻まれる祭礼行事になったと感じます。そして富岡八幡宮も令和9年には御鎮座400年の節目の年を迎えます。

最後に、丸山宮司が神酒開きの際にお話した件をご紹介します。奉納時以来、今まで神輿倉の外に出さなかった御本社一の宮神輿を、今年は本社に展示しました。台風7号の影響で雨に降られましたが、そのおかげで、お宮の神輿全てが水掛神輿となりました。台風の影響も吉と出ましたとお話し頂きました。流石！次回の例大祭は令和8年という事です。

今から楽しみです。

追伸：次回の例大祭には、山木理事に月報寄稿をお願いします。

### 2023年 神輿渡御風景

